

神奈川県足柄上郡山北町の高松山開拓は、県西部の高松山の中腹にある。
標高450m程で、火山灰の酸性土壌だ。

52年に県が、高松地区を酪農開拓地区として、入植者を募集した。同年には試験入植が始まり、54年に29戸が入植して協同組合が結成された。

当初は何もない山野の土地で、開拓住宅が3戸ほどで道も無く、全てを一から始めることとなり、開墾より先に、道路と住む家を作らなければならなかった。我慢と努力が要求された。

高松地区への開拓道路が完成したのは58年で、それまでは資材運搬のための索道しかなく、人々はふもとから5kmはあろうかと思われる急な山道を歩くしかなかった。

酪農は、乳牛2頭、子牛1頭、役牛数頭が県から貸し出され、徐々に頭数を増やしていった。当初は道も索道も無く、クレーンも無かったので、沢の水で牛乳を冷やし、夜明け前に搾った牛乳と合わせて背負い、山道を下っていく日々だった。

65年には35戸中20戸が酪農経営を行い、乳牛は140頭になっていた。

71年には、乳用種去勢牛（開拓牛）肥育が開始された。

入植当初から子どもは多かったが、学校へ通うには細い山道を下っていくしかなかった。川村小学校高松分校が開校したのは56年で、以降2010年に廃校になるまで、高松山開拓の中心となっていた。

学校の向かいの広場には、入植50周年記念碑が建っている。

高松山 14-364-1

- ①調 査 日 令和4年7月22日
②所 在 足柄上郡山北町向原 5069
③地 区 の 沿 革 昭和28年入植。
④設 置 年 月 日 昭和60年10月12日
⑤設 置 者 高松山開拓農業協同組合
⑥碑 文（表面） 開拓記念碑
高松山開拓農業協同組合

⑦碑 文（裏面）

本組合は戦後極度に悪化した我が国の食糧増産の使命を担うため緊急開拓事業として昭和二十八年六月十六日に発足し高冷不毛のこの地に入植して以来満足な家もなく粗末な衣服をまとい野望を糧とし掘立小屋にランプ生活を送りながら使命達成のため開墾農道開設あるいは住宅畜舎の建設を進め文字どおり裸一貫から想像を絶する苦難と試練の日々を乗り越えて今日に至ったここに開拓三十周年を迎えるに当り不倒不屈の開拓精神と先人の偉業を永く後世に伝え心の糧とならんことを願い記念碑を建立する

昭和六十年十月十二日

高松山開拓農業協同組合

組合長理事小宮新一 ほかに理事4名、監事3名、 組合員29名の氏名

- ⑧現 在 の 状 況 高松山の中腹に建立されており、周辺には数戸の住宅を確認。